



草津市 橋川 渉市長 × 学校法人立命館 仲谷 善雄総長 × 西日本旅客鉄道株式会社 財 剛啓京滋支社長

草津の未来へ向けて

令和6(2024)年に市制施行70周年を迎えた草津市。この記念すべき機会に、橋川渉市長、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開設30周年を迎えた学校法人立命館・仲谷善雄総長、JR南草津駅開業30周年を迎えたJR西日本京滋支社・財剛啓支社長の鼎談が実現しました。それぞれの分野で草津市の発展に大きく関わってこられたお三方に「草津の未来」についてお話しいただきました。

Toward the Future of Kusatsu

Kusatsu City celebrates its 70th anniversary in 2024. At the same time, Ritsumeikan University's Biwako Kusatsu Campus and JR Minami-Kusatsu Station are also marking their respective 30th anniversaries. On this memorable occasion, we invited three men significantly involved in the development of Kusatsu City in their respective fields to discuss the future of Kusatsu: Mayor Wataru Hashikawa; President Yoshio Nakatani of the Ritsumeikan Trust; and Takehiro Zai, head of JR West's Keiji branch.

70周年を迎えた今の気持ちを お聞かせください。

橋川市長 この70年間、本市の人口はずっと増え続け、今年4月に14万人に到達いたしました。今しばらく人口は増加しますが、地域によっては既に人口が減少し、高齢化が進み、市全体としても将来の人口減少と超高齢社会に備えた、社会の活力を維持できるまちづくりをしていかなければならないと考えています。

毎年公表される「住みよさランキング」では、今年全国812都市の中で10位となりました。さらには平均寿命、健康寿命も男女とも県内1位で、全国でもトップクラスです。草津市に住みたいと思っただけの「選ばれるまち」「健康長寿のまち」として発展してきたのは、市民の皆様をはじめ、立命

館大学、JR西日本のおかげであると感謝しています。

ここ10年においても、未来を見据えたさまざまな取り組みを進めてきましたが、特に南草津エリアでは都市計画の拠点として、平成28(2016)年10月にアーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)を開設しました。産学公民が連携するUDCBKの取り組みには、立命館大学、JR西日本にもご協力いただいています。

びわこ・くさつキャンパス(BKC)開設から 30年を振り返っていかがですか？

仲谷総長 BKCの開設は、本大学と草津市、それぞれがめざす将来ビジョンを具体化したものであったと思います。当時、本大学理工学部は、他の私立大学と比べて規模が小さく、規模を拡充し、教育・研

究を高度化させるためには、自治体の協力を得た新たな広いキャンパスが必要でした。

その頃、地域の活性化や産業振興などを期待した草津市の大学誘致の政策もあり、振り返ってみると、住民、学生、草津市、立命館の“四方(よんぼう)よし”だったと思います。

現在BKCには、6学部・6研究科が設置されていて、約1万4千人の学生が学んでおり、大きな存在感を示していると思います。キャンパスの玄関口である南草津駅の開業や、かがやき通りの整備は、地域の方々にとっても利便性が増した喜ばしいことだったのではないのでしょうか。

この30年で、大学と地域の「つながり」も たくさん生まれたのではないのでしょうか？

仲谷総長 BKC開設以来「立命館びわこ講座^{*}」として、地域の方々を対象とした公開講座を実施しており、この30年で7千名を超える受講生に、学びの場を提供しています。また、地元の小中学校との連携も盛んで、本大学の教員による子どもたちへの講義や、学生と児童・生徒の交流、スクールガードへの参加も行ってきました。多くの学生団体が地域のお祭りに参加し、地域の方々と交流しています。

※令和6年度から「立命館×草津市びわこ講座」

南草津駅の開業の話がありましたが、南草津駅開業30年を振り返っていかがですか？

財支社長 南草津駅は地域の方々からご要望をいただき、平成6(1994)年9月に開業しました。

開業当初は周辺に田園風景が広がっていましたが、今や乗降客数で草津駅と県内1位・2位を争う駅となり、新快速が停車するほど大きな駅になったことは大変ありがたいと思っています。

一方で、令和2(2020)年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、在宅勤務やリモート会議が進み、皆様の生活様式が変わったことは、県内を運行する路



ウェルビーイングをテーマに開催される、BKCウェルカムデー

線にも大きな影響を与えました。現在、乗降客数はコロナ禍前の約9割の水準まで戻ってきており、多くの方にご利用いただいていることに感謝しています。



草津市 橋川 渉 市長

昭和24年生まれ/京都大学文学部卒業、昭和48年 草津市入庁/立命館駐在事務所長(兼務)、企画部長、政策推進部長を歴任/平成20年3月 第16代草津市長就任から現在第20代草津市長を務める

コロナ禍では、草津市も大変だったのではないのでしょうか？

橋川市長 新型コロナウイルス感染症は、社会・経済を長らく混乱に陥れました。数々のコロナ防疫対策や経済対策に追われてまいりましたが、今ようやく落ち着いてきて、経済活動、社会活動も正常化してきたと感じています。一方では、コロナ禍を機に草津市でも、デジタル技術を活用した働き方が浸透し、行政手続きのデジタル・トランスフォーメーション(DX)も進みました。

また、コロナ禍で、さまざまなイベントが中止となり、外出が制限されたことで、改めて、社会や人とのつながりの大切さを実感することとなり、今はイベントなどで、人との対面でのコミュニケーションの復活に力を入れています。

立命館大学ではいかがでしたか？

仲谷総長 大学でもオンライン授業の受講環境を整備するなど、学生の学びの環境は大きく変化しました。新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行しましたが、教育・研究のDXを強力に進めつつ、地域のお祭りへの協力や、大学を開放したイベントの開催など、対面でのコミュニケーションを、以前にも増して大切にしています。

昨年も「Well-being(ウェルビーイング)」をテーマに、地域の方々や企業、行政、学生、教職員がキャンパスに集う、BKCウェルカムデーを開催

し、約1万3千人の方々に来場いただきました。今年は11月10日に開催予定で、30周年を記念して、BKCの教育・研究力をアピールし、多くの方々と交流できればと考えています。

コロナ禍と時を同じくする社会の変化に、 国が令和2(2020)年に宣言した「カーボン ニュートラル」の実現があります。 草津市の取り組みはいかがですか？

橋川市長 草津市では令和3(2021)年に、西日本で初めて市議会と共同で「草津市気候非常事態宣言」を行い、ゼロカーボンシティを表明しました。これまでも環境分野においては、市民や事業者・団体等と市が参画する「草津市地球冷やしたい推進協議会」で先進的な取り組みを進めてまいりましたが、環境に配慮したまちづくりは、本市がめざす「健幸創造都市」にもつながることから重点的に取り組み、公共施設照明のLED化や、太陽光やごみ発電などの再生可能エネルギーの利活用、また各家庭の太陽光発電や高効率給湯器などへの補助を行い、温暖化対策を進めています。

JRの取り組みを教えてくださいませんか？

財支社長 弊社も、環境長期目標「JR西日本グループゼロカーボン2050」を定め、省エネ車両の導入や、ディーゼルエンジンで動く気動車の燃料を次世代バイオディーゼル燃料へ置き換えるなど、脱炭素社会に向けて取り組んでいます。具体的には、山陽・北陸新幹線や大阪環状線で再生可能エネルギー由来電力の導入を進め、大阪環状線は再生可能エネルギー化比率100%を達成しております。

また、京都線や琵琶湖線などの京阪神の主要線区におきましても、再生可能エネルギー由来電力への置き換えを進めています。鉄道は他の交通機関よりCO₂排出量が少ないことを知っていただき、移動手段として鉄道を選択いただけるよう施策を進めています。



立命館大学びわこ・くさつキャンパス



学校法人立命館 仲谷 善雄 総長

昭和33年生まれ/大阪大学人間科学部卒業、学術博士(神戸大学)/学校法人立命館副総長・立命館大学副学長など学内の要職を歴任/平成31年1月から現職、立命館大学学長も務める

未来に向けてのお話をお伺いしたいと思います。 立命館大学びわこ・くさつキャンパスでは、どのような展望をお持ちですか？

仲谷総長 令和12(2030)年を見据えた中期計画である「学園ビジョンR2030 挑戦をもっと自由に」を策定し、先を見通すことが困難な時代であるからこそ、総合大学として社会の動向を見据え、社会のあるべき姿を提起し、その実現に挑戦していきたいと考えています。

立命館大学は、世界中の研究機関や研究者と連携して、研究と教育を世界水準で推進する大学「次世代研究大学」をめざしています。そのような中、BKCでは、ウェルビーイング、オープンイノベーション、宇宙分野を大きなテーマとした研究と教育を進めていきます。

BKCにおいては、今年度、オープンイノベーション拠点である「立命館グラスルーツ・イノベーションセンター」を設置します。草津市での新たな産業の創出へつながる、地域を支えるオープンイノベーションハブになることをめざしています。

また、ウェルビーイングについては、BKCの全ての学部・研究科が横断的に取り組んでいる課題です。バーチャルな環境が広がっている今日において、リアルだけでなくバーチャルな環境においても、環境の変化や、集団や社会などの社会的関係が、人の心身にどのような影響を与えるのかを探究する拠点「立命館先端クロスバース・イノベーションコモンズ」も今年度整備します。

昨年7月には「立命館大学宇宙地球探査研究センター(ESEC)」を設置し、元宇宙飛行士の野口聡一氏を

ESEC研究顧問に迎え、約30名の研究者が、宇宙に関連する研究に取り組んでおり、今年1月、ニュースでも話題となった小型月着陸実証機「SLIM」においても、月の岩石の解析などに本学研究者が取り組んでいます。

今の展望をお聞きになっていかがですか？

橋川市長 宇宙から新たな産業まで、日本有数の研究拠点ができることを非常に期待しています。さまざまな分野で、世界水準の研究が行われている立命館大学と連携をすることで、本市の進めるまちづくりに、知の力をいただいています。

また、草津市では、令和5(2023)年に産業振興条例と計画を策定しましたが、その策定にもお力添えをいただきました。その重点取組として、創業前から創業後まで、切れ目なくワンストップで事業者を支援する「くさつビズサポ(草津市ビジネスサポートセンター)」を草津商工会議所と共同で開設し、新規創業者の創出・成長・発展と、地域経済の活性化を図っています。

さらに、ウェルビーイングの展開は、誰もが健やかに幸せに暮らせるまちづくり、草津市の「健幸都市」にも大きくつながるもので、大変心強く思っています。

JRの未来への展望についてお聞かせください。

財支社長 草津市は、立命館大学びわこ・くさつキャンパスがあることで、大学生をはじめ、関係人口が多く、また定住人口の観点でも、人口増加が続いていく全国でも珍しいエリアであり、滋賀県全体を牽引していくエリアだと考えています。弊社は未来の羅針盤として「人、まち、社会のつながりを進化させ、心を動かす。未来を動かす。」をスローガンに決めました。地域課題の解決や魅力的で持続可能な地域づくりに向けて、地域の皆様と協働し、交流人口や関係人口、定住人口を拡大させ、沿線人口の維持につながるよう、皆様が“win-win”な関係となれる



ハイラインイベントでにぎわう草津川跡地公園de愛ひろば



西日本旅客鉄道株式会社 理事 近畿統括本部 財剛啓 京滋支社長

昭和44年生まれ/一橋大学法学部卒業、平成4年 西日本旅客鉄道株式会社入社/鉄道本部営業本部担当部長、鉄道本部営業本部副部長を歴任/令和4年6月から現職

よう地域との共生に取り組んでいきたいです。

草津市とは、草津川跡地公園と梅小路ハイラインの連携協定もあるため、人が集まる、ワクワクする施策を一緒に考えていきたいと思えます。

今の展望をお聞きになっていかがですか？

橋川市長 南草津駅とともに草津駅エリアでは、駅前空間を活用した、新たなにぎわいの創出などをめざしたプロジェクトを展開する計画があります。ぜひ一緒に、まちの活力と魅力を高めて“win-win”な関係を強化してまいりたいと考えています。

最後に「草津市の未来」について 市長からメッセージをお願いします。

橋川市長 今年の8月に供用を開始した「インフロンニア草津アクアティクスセンター(草津市立プール)」と、烏丸半島で令和10(2028)年の開業をめざしていただいている人工サーフィン施設。2つの施設ができることで、草津市に「プールと水のまち」という、新たな魅力やにぎわいが加わります。

まちの魅力を高めることに、立命館大学、JR西日本に、これからもご協力いただきながら、さらに住みよいまち、ウェルビーイングのまちとして発展していきたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

誰もが生きがいを持ち、健やかに幸せに暮らせる「健幸都市」を実現し、草津の未来を確かなものとするため、市民の皆様には、引き続きご協力をよろしくお願いたします。